

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市宮城野児童館	
2 指定管理者	社会福祉法人宮城厚生福祉会	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 30,589人(前年度比 103.9%) ・令和3年度 29,434人 ・令和2年度 26,755人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 49,455千円 (49,834千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。 なお、子ども達とエコ活動について話し合いをしたり、キャラクターを募集するなどの取り組みを行い、児童館全体でエコ意識を高め節電に取り組んだことで、12月～2月の電気使用量が前年比25%減の実績となった。	25/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	19/19

### 三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人宮城厚生福祉会）による自己評価》
<p>今年度は、コロナ禍の中で薄れがちな地域の方やボランティアさんとの繋がりを繋ぎ直すことを最重点にして取り組んだ。</p> <p>児童健全育成事業では、自由来館の規制緩和に合わせ来館呼びかけを強めた。館だよりやHPに加え行事ごとのミニチラシや乳幼児対象のメール配信も毎月行った。来館者も次第に増え友達を誘って来てくれる好循環となった。職員も積極的に対話し、利用者の要望を聞いて行事を充実させた。中高校生の活動支援としてはジュニアリーダーとの遊びの会を毎月1回継続できた。リーダーが季節や対象児童に合わせた遊びを工夫してくれて、自由来館の子ども達も含め大変楽しい機会となった。夏休みには震災の語り部活動をしている大学生や社会人のグループを招き、命を考える企画を行った。</p> <p>子育て家庭支援事業では、対象年齢を分けた「幼児クラブ」を月2回、年齢を問わない「子育てサロン」「お話し会」「カレンダー配付」を各々月1回実施した。同じ法人の保育園長や保健師・歯科衛生士にも参加者の子育て相談にのってもらいこれも好評だった。地域の方の申し出を受けて加えたリトミックも参加者が多く、リクエストを受け次年度定例化に至った。</p> <p>地域交流推進事業では、近隣の町内会・小中高等学校・保育施設、行政機関等に毎月の館便りを届けて活動を紹介してきた。新たに近くの高齢者施設に子ども達の活動を伝えるDVDを届けた。散歩の途中、利用者や職員の方から感謝の言葉をいただいた。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、職員の特技を生かし今年度も土粘土・絵画・短歌・折紙・手芸・ヨガ・囲碁を定例で行い、ニュースポーツや児童主体の館行事にも取り組んだ。毎回定員を超える応募があり楽しく活動した。また、外部講師の力を借りて健康教室や環境学習、けん玉教室にも取り組んだ。これらの活動を行う中で、児童館を支えてくれる人が広がり子ども達にも新しい経験をさせることができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、恒例の囲碁教室を継続して実施した。中高生も継続して参加しており、囲碁を楽しみながら異年齢交流が図られている。令和3年度に中学生から提案があったジュニアリーダーの活動が令和4年度から始動し、月1回の定例行事として開催した。児童館が中高生の活躍できる場や力を発揮できる場となるよう支援し、活動後には小学生と一緒に遊ぶ等積極的な交流も見られており、地域の中での居場所の一つとなっている様子が伺われる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、来所する乳幼児親子に次月のカレンダーを作成し配布したり、メール配信サービスを利用して次月のお知らせを送信したり、ポスター掲示や来館時に行事の案内を配布する等、児童館の事業や行事について積極的に周知している。「おはなしポケット」を自由来館時に開催いつでも参加できるようにする等、日々の遊びの充実と共に利用しやすい環境作りを努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、地域の方からの申し出により、乳幼児対象にリトミックを開催し保護者から好評を得た。近隣の児童館と共に、地域の商店街の七夕飾りや商業施設に児童の絵を展示する等、児童館や児童館事業についての認知向上に積極的に取り組んでいる。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、定例行事として行っていた手芸を子ども達の意見から、上学年優先の登録制で「手芸クラブ」として立ち上げて月1回実施し、児童クラブ児童の半数以上が参加する人気の活動となっている。意見箱の「みんなの声」から出た課題は、児童クラブの全員を少人数のグループに分けて子ども会議で話し合い、上級生委員会で各グループからの意見をもとに課題解決に向けた取り組みや約束を決定する等、子ども達が児童館運営に参加し自分達の生活を主体的に考えたり意見を言い合える支援を行い、自主性や社会性を育てている。室内遊びのレシビを職員が提供しあい、「雨天時プログラム」として作成した。この取り組みは子どもの育ちを育む室内遊びの充実と共に職員の質の向上にも繋がる取り組みとなっている。児童クラブ日誌についても、日々の児童クラブの子ども達の活動の様子や育成支援の記録を丁寧に記載して職員間で共有して、適切な支援に繋げている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課